エネルギーを 築いた 日本の電力王・福沢桃介

PARTI 中部経済圏の礎を築いた福沢桃介 — その1

中部の電気事業人の連載を始めるにあたり、最初に福沢桃介を取り上げ紹介したい。

福沢桃介は、1868(明治 1)年に埼玉県比企 郡吉見町で生まれ、1938(昭和13)年東京の自 宅で生涯を閉じた。今年は生誕140年、没後 70年になる。

波乱万丈の人生を過ごし"日本の電力王"と呼ばれた桃介を、今後、機会を設け数回にわたり掲載していきたい。今回は、中部経済圏の礎を築いたことを如実に記した名古屋市千種区覚王山にある「福沢桃介先生之碑」の全文を紹介し、その前半の生涯と業績について述べる。



福沢桃介先生の追憶碑 (名古屋市千種区覚王山日泰寺舎利殿)

福沢桃介追憶碑

名古屋市千種区覚王山にある日泰寺舎利殿の入口東側に「福沢桃介先生之碑」が建てられている。この碑には桃介の生涯を略述し、その功績さらに中部経済圏を築いた偉大な足跡と仁徳を偲んで記述されている。

その全文は

「福沢桃介君は天縦の奇才にして其国家社会 に貢献したる事業は卓抜広大明治大正の経済 史に特筆大書せらるべきものなり

君は埼玉県人にして慶應義塾に学び其前半生は東京を舞台として飛揚したるに係らず後半生の気力精神は全く中部日本に向かって費やされ君の遺業によりて恵沢を受くることもっとも多きは中部日本なるは不思議の遭遇と云わざる可からず

福沢君が中部日本に関心を懐くに至りしは 明治42年名古屋電灯会社に関係したるに始ま る当時の電灯会社は灯火の供給を以て主要な る営業とし且つ主として火力に依頼せしが福 沢君はまず方針を一変し或は電力に或は電熱 に電力利用の境域を拡大するに勉め一転して 広く化学工業を誘起し而して之に応じて電源 を増大せんことを図り各所に水路を開き堰堤 を築きて水力の利用に勉め此の如くして増大 したる電力を送致するがために大送電線を作 り再転して幾他の電力会社を増設す

尾張信濃の渓谷を千万年間黙々として唖流 し茫々として盲走したる河水は之より灯火電 熱となりて幾百万の家と戸々に光明と温暖を 与え電力となりて大小幾百千の工業を誘起す るに至る斯くて春水の四沢に満つるが如く名 古屋の人口は増加して日本第三の都会となり

後年此の電力は更に大阪地方に侵入して其の工業に至大なる衝動を興ふるに至る数十年前誰か信尾の渓水に此の如き偉力を蔵するを知らんや唯だ福沢君の慧眼謄気のみ能く此唖流盲走の水を駆使して電力文明を開展す

中部日本に於て今福沢君を追憶して其の鴻 業を礼讃するの声盛なるもの偶然にあらざる なり茲に下出民義君の唱道により福沢君の旧 友が力を合して碑を建て君を記念せんとする に會うて名古屋地方に大造ある君の事績を書 して以て記となす!

この碑は、桃介が没してから2年後の1940 (昭和15)年11月に、下出民義(明治から大正 時代にかけて名古屋に近代産業を興しリーダ ーとして活躍、また東邦学園の創立者として 知られる)が発起世話人となり、当時の大同電力・東邦電力・名古屋鉄道・矢作製鉄・大同製鋼の5社が協賛した。

撰文は、「二千五百年史」の著者で歴史学者の竹腰興三郎、書は、戦後、書道芸術員創立時の発起人の一人である野本白雲である。

その前半の生涯と年譜

桃介が1908(明治41)年、電気事業に携わり 中部経済圏で活躍するまで、彼の前半の生涯 を年譜により簡単に述べたい。

(1) 福沢家の養子

福沢桃介は、岩崎紀一郎、さだの2男として生まれ、地元の川越中学から慶応義塾に入学した。そして福沢諭吉の養子として1876(明治19)年入籍し、岩崎から福沢に姓を変え、翌年アメリカに留学した。

アメリカでは、ニューヨークのイーストマン・ビジネスカレッジ商業専門学校、ボストンにあるダンマー・アカデミーに学んだ。その後、ペンシルバニア鉄道会社に入社し、日本で将来基幹産業になるであろう鉄道事業の実務を体験した。

(2) 実業界での浮沈

1879(明治22年)アるの開治22年)アるのし㈱入勤売出り、高いのでは、1870のでは、



下出民義 福沢桃介の事業上の協力者 で、東邦学園の創立者

しかし1884(明治27)年に肺結核に罹り、会社を休職して療養生活に入った。このときに株取引を始め、1千円を1年間で10万円にして、兜町の飛将軍と云われた。その後、それを資本に事業展開を図っていくのであるが、このことなどが生涯相場師としての虚像が付きまとうことになった。

株で得た資金で三井系の王子製紙の株を買い取締役に就任した。これは当時三井銀行専務理事だった中上川彦次郎が、桃介の身の上を心配してのことであったが、間もなく辞職してしまった。この王子製紙の取締役在任中に丸三商会を設立した。丸三商会は、ロシでリヤから満州へ鉄道を施設するときの枕木を販売する下請けの会社で、北海道の材木を輸出した。しかしこの事業も資金の調達ができず倒産した。このとき日本銀行に勤め、活躍できずにいた松永安左ェ門を引き抜いて片腕とし、松永も懐刀として働いた。これ以降、生涯にわたる事業の二人三脚が始まった。

1891(明治34)年、福沢諭吉が没した。諭吉 は、9人の子福者で家庭第一主義であった。 また、株取引を嫌い、桃介の行状が不愉快で、 桃介にしかりつけたこともあった。このよう なこともあり、桃介は株取引で当時3百万円 を超える金を手にしたといわれたが、株で得 た金はいつ失敗して無一文になるか分からな いと思い、健康を回復すると株から手を引き 実業界で生きることを決意した。そして井上 角五郎が専務理事をしていた北海道炭鉱鉄道 に再度入社した。ここでは、井上専務の秘書 として政財界の重鎮と顔をつなぎ、国際的な 経済感覚を身に付けた。そして得意の英語と 生来の雄弁で、明治38年、英国から百万ポン ド、約1千万円の外債導入に成功し、我が国 の外資導入の嚆矢となった。

(3) 政友会代議士として1期3年

桃介の異変ともいえる一事に、1912(明治 45)年、千葉県から政友会候補者として衆議 院議員に立候補した。流暢でウイットの富ん だ演説は好評を博し、最高得票を得て当選し、 華々しく政界入りを果たした。ここでは、政 府の予算の不適切性やある企業と政界の癒着

を取り上げて国会で大演説をぶちあげた。こ のときに党の長老に説得されて秘密会の席で 議場での発言を取り消した。この行動で桃介 に糾弾を期待していた正義派の人たちから "桃介というやつはなんという軽薄な野郎 だ"と不評を買った。このようなこともあっ て、政界のからくりの煩わしさに嫌気がさし、 政界財界の期待を担って政界入りした桃介で あったが、1期3年で代議士を辞し、再び政 界に戻ることはなかった。

次回は、桃介と電気事業との関わりから、 彼が携わった中部の主な企業について述べた い。なお、桃介の年譜は次のとおりである。



1932(昭和7)年に来日したイタリア人彫刻家ペシーが制作した大理石福沢 桃介 大理石像 設置)を経て、中部電力が譲り受け、現在でんきの科学館で展示されている。 胸像。鵜沼にある貞照寺で保管されていたものを、矢作製鉄(本社ロビーに

明治1年 1868 埼玉県比企都吉見町で生まれる 明治19年 1873 川越中学3年生から慶応義塾に入学 明治22年 1879 北海道炭鉱鉄道に入社 明治22年 1879 北海道炭鉱鉄道に入社 明治22年 1889 北海道炭鉱鉄道に入社 明治32年 1888 株取引で千円の元手を10万円 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢島吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気株取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯株取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治43年 1910 名古屋電灯株取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯株取締役・記託任 大正3年 1914 英と電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造株設立、相談役に就任(大臣:就任 大正7年 1918 東海電航鉄道株取給役社長に就任 大正8年 1919 東海電鉄鉄道株は長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪電車 大原域社長に就任(大正11年、愛知電力、大阪送電を合併) 大正9年 1920 大同電の株社長に就任(大日電電力、外間では、またがら併) 大同報報報と設立、取締役社長に就任(大日電電力、大阪送電を合併) 大同	年号		福澤桃介年譜
明治20年 1876 福沢家と養子縁組 明治22年 1877 アメリカに留学(2年8ヶ月滞在) 明治27年 1884 結核で療養生活 明治28年 1885 株取引で千円の元手を10万円 明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道保財立、租談役に就任 大正5年 1917 東海電極製造㈱設立、租談役に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、租談役に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1920 大同電力㈱社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪選舗㈱設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱社長に就任(関西電気灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱社長に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦に到本経域と同説任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦に到本経域と同説任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 野和3年 1928 実業界から引退 昭和3年 1928 実業界から引退	明治1年	1868	埼玉県比企郡吉見町で生まれる
明治20年 1877 アメリカに留学(2年8ヶ月滞在) 明治27年 1884 粘液で療養生活 明治28年 1885 株取引で千円の元手を10万円 明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気椒取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯塊取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治43年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯機常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、相談役に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、和総役社長に就任 大正10年 1920 大同電力線社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電機設立、取締役社長に就任(大正11年、一個大阪送電大阪会) 東邦国外線社長に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦取斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役会長就任 東京に別荘「株水末」を建設、東京に移転 東京に別荘「株水末」を建設、東京に移転 異別3年 1928 実業界から引退 昭和3年 1928 実業界から引退	明治16年	1873	川越中学3年生から慶応義塾に入学
明治27年 1879 北海道炭鉱鉄道に入社 明治27年 1884 結核で療養生活 明治28年 1885 株取51で千円の元手を10万円 明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢論吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気(株取締役就任) 明治43年 1910 名古屋電灯(株取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯機で落、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造機設立、相談役に就任 大正7年 1918 東海電極製造機設立、相談役に就任 大正7年 1919 矢作水力機設立、和談役に就任 大正8年 1919 矢作水力機設立、和談役に就任 大正9年 1920 大同電力機社長に就任(大臣:11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1921 関西電気(株社長に就任(大臣:11年、愛知電気鉄道に合併) 大正10年 1921 関西電気(株社長に就任(大臣:11年、愛知電気鉄道に合併) 大下10年 1921 東海道電気鉄道株で入社長に就任 大正19年 1920 大同電力機社長に就任(大臣:2月野任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼梯を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力機和誘役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北惠那鉄道機取締役社長に就任 帝国劇場(株取締役社長に就任 帝国劇場(株取締役社長に就任 帝国劇場(株取締役社長に就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和3年 1928 実業界から引退	明治19年	1876	福沢家と養子縁組
明治27年 1884 結核で療養生活 明治31年 1885 株取引で千円の元手を10万円 明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福保論吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気株取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯株取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期 3 年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯株開発務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 要包書気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造株設立、和総役社長に就任 大正7年 1918 実年本の地別設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉)東海道電気鉄道総取締役社長に就任 大正8年 1919 矢作水力構設立、和総役社長に就任 大正9年 1920 大同電力機社長に就任(木管電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正10年 1921 関西電力機社長に就任(内国電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東邦広斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 大正11年 1922 東邦電力機和設役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東京に移転会は長に就任 大正15年 1926 東部電力機和設定に応任(関西電気、北海道域・東京に移転 東京に15年 東京に移転会 東京に移転会	明治20年	1877	アメリカに留学(2年8ヶ月滞在)
明治31年 1888 株取引で千円の元手を10万円 明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢諭吉房す 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、和談役に就任 大正7年 1918 矢作水力㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 矢作水力㈱設立、和談役に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、取締役社長に就任 大正8年 1920 大門電力㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大下11年 1922 東邦電力㈱和総役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦電力㈱和総役とし、成任 天竜川電力㈱取締役会長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役会長に成任 大正15年 1928 実業界から引退 東邦日 1928	明治22年	1879	北海道炭鉱鉄道に入社
明治31年 1888 王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代 明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任 ・常発取締役に就任(約半年後辞任) 明治43年 1910 名古屋電灯㈱前務、翌年取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正3年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 実施電機製造㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 実施電機製造㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 実施電機製造㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 実施電機製造㈱設立、相談役に就任 大正9年 1920 大同電力㈱社長に就任(大三11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任(大西電駅、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北東那鉄道㈱取締役会長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 長院院任 昭和3年 1928 実業界から引退 会議会員会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会	明治27年	1884	結核で療養生活
明治32年 1889 京橋に丸三商店設立(約1年後閉店) 明治34年 1891 福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 1910 特福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正3年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、相談役に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、取締役社長に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉) 東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任 大阪送電機設立、取締役社長に就任 大正9年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任(大曽軽行(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東京国場場㈱取締役社長に就任 東京川電力㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 東部電力㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 東京川電力㈱取締役会長就任 東京川電力㈱取締役社長に就任 東京に移転 東京に移転 東京に移転 東京に32年 東京に移転 東京に32年 東京に32年 東京に32年 東京に32年			株取引で千円の元手を10万円
明治34年 1891 福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社(約5年余勤務) 明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、和談役に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、取締役社長に就任 大正7年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任 大正8年 1919 矢作水力機設立、相談役に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電(株設立、取締役社長に就任 大阪送電(株計長に就任 大正10年 1921 関西電気(株社長に就任(大戸11年、愛知電気鉄道に合併) 大正10年 1921 関西電気(株社長に就任(大戸11年、愛知電気鉄道に合併) 大正11年 1922 東邦電力(株社長に就任(関西電気)、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦国力(株田談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦国力(株取新役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力(株取務役社長に就任 大正15年 1926 東邦電力(株取務) 田和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	明治31年	1888	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	明治32年	1889	京橋に丸三商店設立(約1年後閉店)
明治41年 1908 博福電気軌道設立発起人、豊橋電気㈱取締役就任 明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1 期 3 年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、和談役に就任 大正7年 1918 疾作水力㈱設立、和談役に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電株設立、取締役社長に就任 大正10年 1921 関西電気(株社長に就任(大き電気) 大正11年 1922 東部電力(株田談役に成任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東京国力(株田 (関西電大)・大同製鋼(株区)・大同製鋼(株区)・大同製鋼(株区)・大同製鋼(株区)・大同報力(株区)・大田(大区)・大同報力(株区)・大同報力(株区)・	明治34年	1891	福沢諭吉歿す
明治43年 1910 名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任(約半年後辞任) 明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、取締役社長に就任 大正7年 1918 矢作水力㈱設立、相談役に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉)東海道電気鉄道に合併)大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併)北惠那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 実業界から引退 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
明治45年 1912 千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年) 大正2年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正3年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正5年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正7年 1918 東海電極製造㈱設立、相談役に就任 大正8年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉) 東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正10年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
大正 2 年 1913 再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任 大正 3 年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正 5 年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正 7 年 1918 東海電極製造㈱設立、和談役に就任 大正 8 年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任 大正 8 年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉)東海道電気鉄道は一分で、大阪送電機設立、取締役社長に就任 大正 9 年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大阪送電を合併)大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正 10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併)大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正 11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併)北恵那鉄道㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役会長就任東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和 3 年 1928 実業界から引退 昭和 6 年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
大正 3 年 1914 愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任 大正 5 年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正 7 年 1918 東海電極製造㈱設立、取締役社長に就任 大正 8 年 1919 矢作水力㈱設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併)大阪送電㈱設立、取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併)大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正 9 年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大正10年 大正 10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併)大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正 11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併)北恵那鉄道㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役会長就任東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和 3 年 1928 実業界から引退 昭和 6 年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			千葉県選出の代議士に当選(政友会公認・1期3年)
大正 5 年 1917 電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任 大正 7 年 1918 東海電極製造㈱設立、相談役に就任 木曽電気製鉄㈱設立、取締役社長に就任 大正 8 年 1919 矢作水力㈱設立、相談役に就任(大正 11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任(大正 11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正 9 年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正 10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正 11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正 15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和 3 年 1928 実業界から引退 昭和 6 年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	大正2年		
大正7年1918東海電極製造㈱設立、相談役に就任 木曽電気製鉄㈱設立、取締役社長に就任大正8年1919矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉) 東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任大正9年1920大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大正10年1921関西電気㈱社長に就任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任大正11年1922東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任大正15年1926天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転昭和3年1928実業界から引退昭和6年1931貞照寺地鎮祭に臨席			愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任
大正 8 年 1919 矢作水力(株)設立、 和談役に就任(社長: 長男の福沢駒吉)			電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任
大正8年1919矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉) 東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任大正9年1920大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大正10年1921関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任大正11年1922東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任大正15年1926天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転昭和3年1928実業界から引退昭和6年1931貞照寺地鎮祭に臨席	大正7年	1918	
東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併) 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正9年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			木曽電気製鉄㈱設立、取締役社長に就任
大阪送電㈱設立、取締役社長に就任 大正9年 1920 大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併) 大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	大正8年	1919	矢作水力㈱設立、相談役に就任(社長:長男の福沢駒吉)
大正9年1920大同電力㈱社長に就任(木曽電気興業、日本電力、大阪送電を合併)大正10年1921関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任大正11年1922東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任大正15年1926天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転昭和3年1928実業界から引退昭和6年1931貞照寺地鎮祭に臨席			東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任(大正11年、愛知電気鉄道に合併)
大正10年 1921 関西電気㈱社長に就任、12月辞任(名古屋電灯、関西水力電気が合併) 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任 大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併)北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任帝国劇場㈱取締役会長就任東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
大正11年 1922 東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転) 東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	大正10年	1921	
東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併) 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
北恵那鉄道㈱取締役社長に就任 大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	大正11年	1922	東邦電力㈱相談役に就任(関西電気、九州電灯鉄道を合併・本社を東京に移転)
大正15年 1926 天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			東邦瓦斯を設立(名古屋瓦斯を合併)
帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			北恵那鉄道㈱取締役社長に就任
東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に移転 昭和3年 1928 実業界から引退 昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席	大正15年	1926	
昭和3年1928実業界から引退昭和6年1931貞照寺地鎮祭に臨席			帝国劇場㈱取締役会長就任
昭和6年 1931 貞照寺地鎮祭に臨席			
昭和13年 1938 東京の渋谷本邸で死去			貞照寺地鎮祭に臨席
	昭和13年	1938	東京の渋谷本邸で死去